

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成29年 05月25日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学分野

職 名・学 年 博士課程3年

氏 名 曾我美 遼

助成の種類	平成29年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	2017年米国耳鼻咽喉科学会春季合同会議 Combined otolaryngology Spring meetings		
発表形式	<input type="checkbox"/> 招待 ・ <input type="checkbox"/> 口頭 ・ <input checked="" type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他( )		
発表題目	Process and properties of tracheal wound healing in a new murine injury model.		
開催場所	アメリカ合衆国・カリフォルニア州・サンディエゴ・Manchester Grand Hyatt		
渡航期間	平成29年04月26日 ～ 平成29年04月29日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )		
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000 円	
	使用した助成金額	200,000 円	
	返納すべき助成金額	0 円	
	助成金の使途内訳	学会登録費および参加費用	30,000 円
		渡航費	170,000 円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 海外の発表では特に旅費がかなりかさみ費用の捻出に難渋しておりましたところに助成をいただくこととなり、大変ありがとうございました。 また、海外の学会では必ずしも会員登録をしているわけではなく、発表時に臨時の会員登録を要することが多いため、これについても助成金を使用することを許可いただけたことも助かりました。		

今回、2017年4月26日から30日にかけて開催された Combined Otolaryngology Spring Meetings (COSM) 2017に参加した。

COSMはアメリカの耳鼻咽喉科学に関連する諸学会（顔面形成外科学会、気管食道科学会、頭頸部外科学会、喉頭科学会、鼻学会、耳学会、神経耳学会、小児耳鼻科学会、三科学会）などの合同学術報告会である。2014年はラスベガス、2015年はボストン、2016年はシカゴとアメリカ合衆国の各地で開催されており、今年はカリフォルニア州、サンディエゴ市にて開催された。

サンディエゴはアメリカ合衆国西海岸の南の端にあたる都市であり、気候は一年を通じて温暖である。特にメキシコと国境を接していること、自然環境が良いことなどのため多数の国からの移民が居住しており、アメリカ合衆国の多民族性をよく表していた。また、動物園、水族館、サファリパーク、博物館などが近接して市中央部に集中しており、観光客も多数訪れていた。

本合同学会には、アメリカ合衆国を中心とした各国より2500名超が参加した。医師、医学生、言語療法士、看護師など耳鼻咽喉科学に関連する多数の医療専門家が参加していた。

私は ”The process and properties of tracheal wound healing in a new murine injury model. ” と題したポスター発表を行った。気管粘膜は生命活動に重要な組織であるにもかかわらず典型的な実験動物であるマウスを用いた研究が少なく、十分な研究がなされていなかった。気管粘膜の損傷は窒息などの致命的な転機につながることも多く、これは既存の報告にあるイヌ・ウサギなどより相対的に体格の小さいマウスでは特に問題となる。実験動物の生存率が低いことは倫理的な問題が大きく、また、費用や薬剤などの面で実験計画が立てづらくなるなど様々な難点をもたらす。私は動物実験モデルが不十分であることが研究進展を妨げると考え、新たなマウスを用いた動物実験モデルを作製することを計画した。気管粘膜の損傷を小さく抑えることで動物への侵襲が低減されたことを確認した。また、組織学的所見を精査し気管の治癒過程を検証した。

質疑は同分野の研究を行っている研究者より、マウスにおける気管創傷治癒過程モデルの過去の研究事例についての知見、過去の研究事例より管理しやすい動物モデルについての知見などであった。また、ラットを用いた気管粘膜創傷治癒過程モデルとの比較についての質疑もあった。

他に注目を集めた発表として、同門の樋渡による “Mesenchymal Stem cell Conditioned Media Inhibits TGF- $\beta$  signaling in vocal fold fibroblasts.” があった。同学会のALA(アメリカ喉頭科学会)の一等賞を獲得し、表彰された。

以上。